



一般社団法人 奈良教育大学同窓会竹柏会会報

まほろば

第 3 8 号



目 次

- 会長挨拶・キャンパスだより 2
- 理事長挨拶 3
- 学長挨拶 4
- 令和6年度決算報告・監査報告 5
- 令和6年度会務報告・令和7年度活動方針 6
- 役員紹介・寄贈書の紹介 7
- 同窓会だより 8
- 同期会等開催への助成金制度について・未来を育む基金 9
- 同窓生のつどいのご案内 10
- 研修部だより 11
- 会員だより・支会だより 12～17
- 学生会員からのたより 18～19
- 同窓会年会費振り込みご協力をお願い
事務局だより・編集後記 20

『西ノ京の春』

花岡 美恵子 (S52)

4月下旬、女性3人で写生に出かけました。川に桜の花びらが舞い落ちて、上を見ると、まだうすもも色の花がついている頃。「今年は、お花見が長くできていいですね。」と言いながら、西ノ京の近くの佐保川沿いを歩いていきました。

納屋の横でちょうど日陰になっている場所に腰をおろして、絵を描き始め、こんなことを思いました。昔、万葉の人は、素敵な衣装でこの辺を散策し、和歌を詠んでいたのかもしれないあと。

しばらくして、納屋にやって来た持ち主の方といっしょにお茶をいただき、4人でおしゃべりをして、行く春を惜しみながら、よい1日を過ごしました。



ご挨拶
一般社団法人奈良教育大学
同窓会竹柏会 代表理事
久保 三左男

「同窓生のつどい」で お会いしましょう

全国の会員の皆様いかがお過ごしですか。平素は竹柏会活動に対してご指導ご鞭撻ご支援をいただきありがたく厚く御礼を申し上げます。

昨年は能登半島地震に始まり夏の猛暑、秋の予想もしないゲリラ豪雨と大変な年となりました。今年に入っては、各地から山火事のニュースが報じられました。前にもふれましたが、本会の会員は47都道府県全てに在住されており、大きな災害の報じられる度に何らかの被害に遭っておられるのではないかと案じています。

そこで提案です。**全国各地47都道府県に同窓会竹柏会の支部を結成しませんか?** 現在支部は、奈良県・大阪府・三重県・京都府の4府県にありますが、まだまだ会員の皆様の要望を満たすだけの広がりはありません。まず、3人からで結構です。集まって計画を練ってみてください。支部作りのお手伝いは事務局がさせていただきます。どうか遠慮せずお問い合わせください。

同窓の友は楽しい時も苦しい時も頼りになるものです。同窓会のネットワークを全国に広げてください。皆様方のご相談お待ちしております。

卒業生会員の皆様の会費納入者数は令和6年度996名で1,000名を割っています。かつては4,000名余りの会員の会費が振り込まれ、毎年会誌を発行して多くの会員の「声」をお届けしてきましたが、現在は「まほろば」がその役目を果たしています。会員約14,000人の皆様に大学の様子と学生の活躍、同窓会の事業のご案内をしています。

「まほろば」に会費納入の振込用紙を同封していますので、会費の納入をお願いします。振り込み方法を工夫し、身近なコンビニからでも振り込めるようにしています。昨年の振り込み数は郵便振り込みを超えて、コンビニ振り込みの件数が最多となりました。同窓会の活動は会費のみが頼りですので、会員の皆様のご協力をよろしく願います。

総会から「同窓生のつどい」に名称を変更し、内容も工夫します。同窓生が年に一同に会する総会を令和7年10月4日(土)に開催します。学生会員と会員が交流し懇親の深まる機会になればと会場は大学の山田ホールと学生食堂とし、会費も低価格に設定しています。久しぶりに母校を訪れていただく良い機会と思いますので、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

古都奈良を代表する文化財、興福寺五重塔が120年ぶりの大規模な保存修理工事に入りました。皆様にもなじみの深い五重塔は、いますっぱり素屋根に覆われており、工事の完成は2031年とのこと。素屋根に覆われた風景もまた良いものです。大仏殿・春日大社・元興寺・春日野の鹿……観光客で町中が賑わっています。懐かしい奈良を是非訪問してください。

結びに会員の皆様のご健康をお祈りしご挨拶とさせていただきます。



入学生はどの都道府県から？

(令和6年度、卒業高校所在地で調査)

1 奈良県 69名	7 三重県 6名
2 大阪府 65名	8 愛媛県 6名
3 兵庫県 26名	9 香川県 5名
4 京都府 20名	10 滋賀県 5名
5 愛知県 11名	11 和歌山県 4名
6 静岡県 10名	12 岡山県 4名

卒業生の進路は？(令和6年3月卒業修了者)

*資料：令和6年大学概要

教員 幼稚園・認定こども園	5名	公務員	19名
小学校	68名	企業	48名
中学校	25名	大学院等進	26名
高等学校	8名	保育士等	8名
特別支援学校	7名	未就職者	16名
教育委員会	1名		
期限付採用	79名		
【合計 310名】			



ご挨拶
奈良国立大学機構
理事長
榎 裕 之

職業としての教師と医師： 優れた教師を輩出するため の一提言

我が国を含め、生活水準が一定レベルを越えた国では、若者の多くが大学に進学し、個人や市民として必須の良識や価値観を養うとともに、社会を支える職業人に必要な志と専門能力の涵養に努めている。近年、国際情勢や技術革新などの影響で、職業の内容や価値が様変わりする例も増えているため、在学中には特定職種のための専門能力の習得に留まらず、予測不能な未来社会においても対応できる基盤的な能力を鍛え、就職後も研鑽し続けることが欠かせない。特に、少子化が進む我が国では、人口が少ないフィンランドの事例も参考に、個人の持つ基盤的な能力と適応力を一段と強めることで、将来に遭遇する多様な社会状況に応じ、少人数でも適切な判断や対応ができるように、家庭・学校・社会での学びと教育の質をさらに高める必要がある。

さて、教育に必須の教師と医療に必須の医師は、永年に亘り社会に不可欠の職とされ、その育成には国や自治体が多大な支援をしてきている。医師養成では、51の国公立大学と31の私立大学が、優れた若者を受入れ、6年の学びを経て約9千名の医師を毎年誕生させている。医師は、地域的な偏在や研修内容に関わる課題が指摘されているが、多くは最新医学を学び続けることで国民の健康維持に貢献し、社会の敬意を受けている。他方、教員養成は、以前は、国公立の教育系11大学と教育学部を持つ45の大学が中核を担い、優れた公教育

を支えてきたが、近年は、職業選択の自由の影響もあり、国公立の教育系大学や学部の卒業生の多くが教員以外の職に就くことが増えている。また、私立大学での教員養成が活発化したため、小学校教員の新規採用の過半が私立大学育ちとなっている。教員の多様性の観点からは好ましいことだが、医師の養成の場合と同様に、公的支援の厚い国公立大学が教員養成において本来の使命を果たし、次世代育成の鍵を握る教師と教育の質の向上に、より大きく寄与することが望まれている。

そうした状況を生み出すために、教職大学院制度などの取組みも進んでいるものの、第1に、優れた能力と志を持つ人材を育てる大学で、特に公的支援の下で十分な見識と能力を持つ人材育成の任務を担う国公立大学で、学生の職業選択の自由を尊重した上で、教育と教職の重要性を認識させ、教師を目指す学生の数と質を高めることが必要ではないか。なお、奈良国立大学機構傘下の奈良教育大学では学生の約6割が卒業時に教師になるが、奈良女子大学では、卒業までに学生の約2割が教員免許を得るものの、学部や大学院卒業時点で教員になる割合は、5%前後で残念な状況にある。

優れた教員確保のために進めるべき第2の取組みは、医師養成制度も参考に、教員養成を、現行の4年制を残しながらも、5年か6年かける制度へと拡大させ、免許取得の必要科目を慌ただしく履修するのではなく、学術的な研究や海外での本格研修なども可能とする魅力的な養成制度に進化させることではないか。勿論、そうした教員養成制度の改革には、より多くの時間と費用を要するため、公的支援の追加が必須だが、全ての国民が受ける公教育の質の向上に繋がるだけに、日本の未来への公的投資として納税者の支持が得られるのではないだろうか。これらの取組みにより学校教育の質向上への社会の関心が高まり、教師を憧れの職とする若者が増えることを切に願っている。





ご挨拶
奈良教育大学
学 長
宮 下 俊 也

学生の活躍が嬉しい!

令和7年度は、コロナ禍前と同様、学部と大学院合同による入学式で幕を開けました。竹柏会からは久保三左男代表理事、松原さおり理事のご臨席を賜り、学歌は座席の間の通路に立ち並んだ学生が合唱し、まさに講堂全体が立体的な歓びに包まれました。

いわゆる「教職離れ」が進む中、本学学部志願者は本年度も増加し、全国の教育学部の中でもトップクラスの受験倍率となりました。また昨年度の教員就職率も高水準にあり、公立学校教員採用試験の合格率は平成25年度以降で最高となりました。これらについては、竹柏会による学修環境の基盤づくりや就職支援に対するご尽力の賜物であり、あらためて心より深く感謝申し上げます。

昨今の高校生は、「サークル活動など、楽しい学生生活を送れるかどうか」も志望校決定の要因に挙げているようです。そしてその情報収集はSNSや口コミによるところが大きいのではと私たちは捉えています。そのため、本学総務課の広報担当は、学内外における本学学生の活躍を高校生の目や心に届くよう、発信を重ねています。

その活躍をいくつか紹介いたします。

まず、学生の提案によって本学の「創基150年」をクローズアップしてくれたことです。これまで大学が行う周年行事は「奈良県尋常師範学校」の開校(1888年)からカウントして行ってきましたが、「『寧楽書院』開設(1874年)からの歴史を記念すべきだ」と、歴史的研究を進め、「寧楽書院創立150周年記念展『寧楽書院とその時代』」の開催と、『寧楽書院 150年の歩み』の刊行をやって

くれました。ここでも竹柏会からの多大な協力をいただきました。

スポーツ活動では、男女混合の新しいスポーツ「コーフボール」の普及を日本選手権での準優勝を弾みに進めたり、富士山麓で「トレイルランニング」を行ったりするなど(NHK-BSで放映)、さまざまな活躍が見られます。

文化的・教育的活動では、スクールサポート、奈良県総合医療センター小児病棟でのボランティア、山間地域の教育支援、不登校の児童生徒や高齢者支援、ユネスコクラブによる全国的な活動、学生オペラ、美術や書道の展覧会、「夏の算数・数学教室」や「奈良市とともに行うまちづくり」の参画など、大学での学びを生かした取組も活発です。

奈良教育大学が目指すことは、「教育を学ぶ(学んだ)学生が生き生きと逞しく社会への貢献を果たすこと」だと思います。そのために、大学も支援を重ねていきたいと思っています。

さて、現在すべての国立大学は財政状況に苦しんでおります。諸物価や光熱費等が高騰しているにもかかわらず、国からの運営費交付金増額の見込みはたっていません。本学においても教育の質を損なうことなく各種支出を抑える等、経営の健全化に努めているところですが、引き続き「未来を育む基金」へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

これまでいただいたご厚志は、クラブハウス新設にかかる支援、留学生派遣や国際交流等の学生支援事業に活用させていただいております。この場を借りて深く感謝申し上げますとともに、今後、使途の内容については、会報等によってご報告して参ります。どうか引き続き、学生のためにご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和6年度 一般社団法人奈良教育大学 同窓会 竹柏会 一般会計 決算報告
(令和6年4月1日~令和7年3月31日)

(歳入の部)

単位：円

款	項	本年度予算額 (A)	3月31日現在 (B)	比較増減額 (B-A)	備 考
会 費		5,240,000	5,035,090	△ 204,910	
	1 通常会費	2,200,000	1,995,090	△ 204,910	会員及び正会員 996 名
	入学時	2,392,000	2,392,000	0	学生274 名、院生 50 名
	2 入会金	0	0	0	
	入学時	648,000	648,000	0	学生274 名、院生 50 名
繰越金	前年度繰越金	2,720,957	2,720,957	0	
利 子	利子及び雑収入	10,000	6,072	△ 3,928	広告料、利子
合 計		7,970,957	7,762,119	△ 208,838	

(歳出の部)

単位：円

款	項	本年度予算額 (A)	3月31日現在 (B)	比較増減額 (A-B)	備 考
事 業 費		4,370,000	3,336,128	1,033,872	
	1 広報費	2,500,000	2,339,775	160,225	会報「まほろば」37号作成、発行等
	2 卒業記念品費	400,000	85,645	314,355	卒業証書ファイル、紙袋、懇親会補助費
	3 研修費	100,000	77,524	22,476	講師謝礼等
	4 徳・得講座費	120,000	50,684	69,316	まほろば徳・得講座講師謝礼等
	5 支会活動助成費	600,000	402,500	197,500	支会活動活性化対策費
	6 学生生活助成費	350,000	350,000	0	学生会員の活動補助
	7 環境整備費	300,000	30,000	270,000	学内植樹、整備等
	8 教育のつどい	0	0	0	
管 理 費		1,550,000	838,864	711,136	
	1 役員旅費	500,000	281,820	218,180	理事、支会長、評議員、正会員等旅費
	2 備品費	300,000	218,777	81,223	事務局備品
	3 消耗品費	100,000	9,702	90,298	印刷用紙等
	4 通信費	150,000	107,291	42,709	切手、はがき、電話代等
	5 賃借料	100,000	48,878	51,122	コピー機リース料、コピー代
	6 会議費	50,000	15,028	34,972	各会議お茶代
	7 事務局運営費	200,000	80,808	119,192	事務局管理運営等
	8 総会費	150,000	76,560	73,440	会場費等
事業基金		1,000,000	1,000,000	0	
	事業基金	1,000,000	1,000,000	0	令和6年度分基金として繰入
予 備 費		1,050,957	94,933	956,024	
	雑費	1,050,957	94,933	956,024	諸行事準備費用等
合 計		7,970,957	5,269,925	2,701,032	

差引現在高 7,762,119 円 - 5,269,925 円 = 2,492,194 円

2,492,194 円は、次年度に繰り越します。

事業基金現在高 (令和7年3月31日現在)

南都銀行 (定期) 5,816,769 円 (令和6年度基金100万円、利子70円を含む。)

学生生活助成基金現在高 (令和7年3月31日現在)

南都銀行 (普通) 220,228 円

令和6年度の会計については、上記の通りであることを報告いたします。

令和7年3月31日

会 計

山田 昇 

会 計

四野宮 康子 

会計監査報告

令和6年度の会計決算報告書を詳細に監査いたしましたところ、諸帳簿等はよく整備され、正確適正に処理されていることを認めます。

令和7年4月16日

監 事

金治 延幸 

令和6年度会務報告

4月3日	大学入学式	10月3日	第3回理事会
4月17日	会計監査を受ける	10月12日	大和郡山支会総会
4月17日	第1回理事会 第1回まほろば編集会議	10月27日	公開文化講演会 「私が校歌を作曲したおはなし」 ～奈良を歌うということ、 永く歌い継ぐということ～ 講師：宮下俊也先生 奈良教育大学学長 参加者：48名(内同窓会員35名)
4月27日	第1回正会員(推進委員)総会 出席28名・委任状74名計102名 第2回まほろば編集会議	11月2日	支会長・評議員合同会議
5月8日	第1回理事連絡協議会 第3回まほろば編集会議	11月6日	第4回理事連絡協議会
5月19日	同窓会総会(於) 奈良ホテル 参加者：32名	11月10日	大阪市興東会創立70周年記念の会・ 退職校長会
5月26日	五條支会総会	11月16日	大学祭でのホームカミングデー ＝卒業生と大学との交流会
5月29日	第4回まほろば編集会議	12月4日	第5回理事連絡協議会 まほろば徳・得講座 第2講 講師：木村 鑑廣先生 大阪市立喜連東小学校校長 参加者：15名(内学生6名)
6月1日	八尾支会総会		
6月5日	第2回理事連絡協議会 第5回まほろば編集会議		
7月1日	会報まほろば37号 発行		
7月3日	第2回理事会		
7月3日	まほろば徳・得講座 第1講 参加者：33名(内学生3名) 講師：逢香さん(妖怪書家)	令和7年	
7月6日	生駒支会総会	1月8日	第4回理事会
7月17日	学生(自治会等)との話し合い 新・旧役員(学生=10名) 濱田学生支援課長・久保会長・理事代表 6名(同窓会活動を各担当者から説明・ 学生からの質問・要望を聞く等)	1月18日	大阪市興東会新春総会
8月6日	東大阪市興東会総会	1月26日	桜井支会総会
8月10日	京都支会総会	2月5日	第6回理事連絡協議会 事務局会議
9月4日	第3回理事連絡協議会	2月16日	名張市支会総会
9月24日	事務局会議	3月5日	第7回理事連絡協議会
9月30日	大学中間卒業式 4名 学部 2名 院生 2名	3月24日	卒業式に向けての準備
		3月25日	大学卒業式 卒業生 308名 学部 254名 大学院 54名
		3月25日	学生部活動支援金贈呈

令和7年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 活動方針

1. 大学当局との連携を確かにし、大学の充実と竹柏会の発展に努める。
2. 会員相互のふれあいを大切にし、同窓会意識の高揚を図るとともに会費納入への理解を深め、会費納入者の大幅増員をめざす努力をする。
3. 学生会員に向けての支援活動を拡充する。体育・文化部活動への援助を行う。
4. 記念樹の管理等、学内環境の整備に努める。
5. 年間事業の活動と支会活動との連携を密にする。支会を援助し、新しく支会を設立する。
6. 総会に変わる「同窓生のつどい」を成功させる。

令和7年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 役員紹介 (敬称略)

名誉会長	宮下 俊也	名誉理事	吉田 貴子	理事	四野宮 康子	竹柏会委員	銭本 三千宏
顧問	加藤 久雄	代表理事	久保 三左男	監事 竹柏会委員	山田 昇		中澤 新治
	長友 恒人	理事	松原 さおり		山田 恵敏		豊田 弘司
	柳澤 保徳		小谷 勝彦		奥村 浩一		深田 展巧
	長田 光男		香川 一実		福西 正剛		西岡 由郎
	西田 史朗		小林 邦子		金治 延幸		林田 晃典
	中川 克巳		増田 辰夫		岩橋 恭子		山崎 淳美
名誉理事	松村 恵司		吉田 誠	武村 恵美	枝元 哲		
	北 良夫	近藤 義之	滝川 満夫	今井 美之			

(令和7年4月30日現在)

支会長	奈良市	林田 晃典	支会長	吉野	藤井登志夫	評議員	生駒市	中谷 篤	評議員	御所市	
	天理市	村井 稔正		高校	松田 雅彦		生駒市	川口真由美		五條市	尾崎 和弘
	大和郡山市	楠 隆彦		大阪市	池田 眞一		生駒郡	田畑 吉一		内吉野	杉田 好雄
	山辺郡	中西 拓也		東大阪市	金治 延幸		桜井市	中谷 英二		吉野	
	生駒市	中井 公人		八尾市	浦上 弘明			協田 正美		高校	稲葉 功
	生駒郡	宮前 清和		京都	鐘築 栄滋		北川 雅尚	大阪市		前谷さき子	
	桜井市	半田 孝		名張市	廣瀬 裕司		前川 美幸	坂 幸之介			
	磯城郡			京都市	井口 和子		松村 宙亨	東大阪市		植田 勝	
	宇陀	田中 三彦		奈良市	西田美智子		宇陀	松岡 清之		高山 卓三	
	橿原市	山本 秀樹			阪東 俊行		檀原市	向井 清		八尾市	加藤 賢一
	高市郡	上西 義次			浅野 典昭		高市郡	中島 浩一		京都	井戸野仁司
	大和高田市	吉川 淳		奈良東部	村田 秀治		大和高田市			濱 喜代巳	
	北葛城郡	増田 辰夫			谷嶋美智子		北葛城郡	森岡 義博		名張市	布村 進
	香芝市			天理市	阪部 保		香芝市			京都市	大久保憲嗣
	葛城市	井村 享史			喜多 健一		葛城市				
	御所市			大和郡山市	山田 恵敏						
	五條市	喜多 孝行		山辺郡	熨斗 慎司						
	内吉野	久保 隆			川畑 恵子						

(令和7年4月30日現在)

寄贈書の紹介



会員の寺島洋子様 (S47) と山本隆萬様 (学生会員) から書籍を寄贈していただきましたので紹介いたします。

「知足 寺島洋子川柳句集」: 新葉館出版

「寧楽書院150年の歩み
—奈良教育大学の歴史を旅して—
: 寧楽書院愛友会

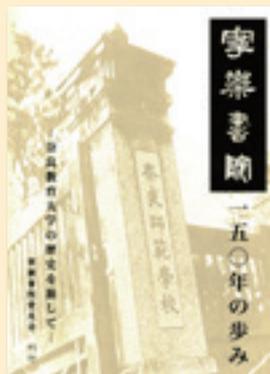
また、本学の卒業生ではありませんが、松岡正樹様より興東會の会誌を2冊寄贈していただきましたので紹介いたします。

「明治三十七年度總集會以降 會誌」: 興東會
(明治37年8月13日~大正2年9月7日)

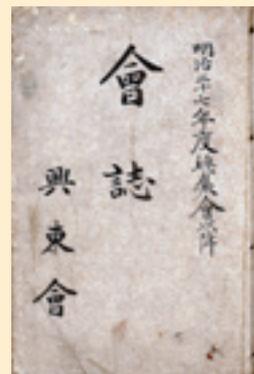
「大正二年 會誌」: 興東會
(大正2年11月11日~昭和22年3月7日)



知足 寺島洋子川柳句集



寧楽書院 150年の歩み



明治三十七年度
總集會以降會誌



大正二年 會誌

同窓会だより

正会員（推進委員）総会報告

令和7年5月10日、山田ホールを会場に正会員総会が開催されました。「正会員総数127名のうち、29名の出席と70名の委任状がある」との報告があり、総会の成立が確認されました。久保三左男代表理事が開会の挨拶で、朝ドラ「あんぱん」に出てくる師範学校のことにふれながら、本学の同窓生が全国各地で活躍していることを紹介し、支会の拡充や年会費の納入について述べました。議長に増田辰夫理事が選出され、令和6年度会務報告・決算報告・会計監査報告、令和7年度役員体制、活動方針・予算案が審議され、新事業の「同期会等開催への補助金制度」「同窓生のつどい」を含め、いずれも満場一致で承認されました。松原理事が閉会の挨拶を述べ、総会は終了しました。



「正会員（推進委員）」について

正会員は総会での議決権を有し、同窓会活動の推進を担っていただきますので、令和5年度より「正会員」の名称に(推進委員)を添えて、その役割を明確化しました。年会費は3,000円(1,000円単位での増額可)で、新しく「正会員(推進委員)」への登録をしていただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。

支会長・評議員合同会議の報告

令和6年11月2日、奈良教育大学山田ホールを会場に支会長・評議員合同会議が開催されました。久保三左男代表理事の挨拶のあと、奈良市、天理市、大和郡山市、山辺、生駒市、桜井市、磯城郡、宇陀、北葛城郡、東大阪市、名張、京都の各支部から出席された14名の方から、自己紹介と各支部の状況(近況)報告をしていただきました。

各支部からは「(奈教大出身の)教員数が減少している」「交流する場を設けても参加者がなかなか集まらない」などの課題も報告されました。これらの課題を解決するための独自の取り組みをしている支部からの報告もあり、意見交流が活発に行われました。最後に同窓会事務局から、各支部の集会の場として奈良教育大学の生協が利用できること、新たに京都市支部が立ち上げられることなどが連絡され、閉会となりました。



大学の体育館に大型送風機を寄贈

同窓会では、学生団体(学生自治会・体育会・文化会・大学祭実行委員会)の代表者と話し合う機会を設けています。令和6年7月17日の会では、学生会員の皆さんの熱心な活動の様子を伺い、同窓会でも会報「まほろば」でその様子をこれからも発信していきたいと強く思いました。

久保代表理事や参加した理事から、「活動で何か困っていることはないか?」と尋ねると、「プールの浄化装置が故障していて練習を付属小で行っている」「トレーニング器機が古い」「体育館が暑くてたまらない」などの意見が出ました。同窓会として、大学当局にもその声を伝えましたが、「未来を育む基金をお願いしているような現状」とのことでした。そこで、



同窓会理事会において「通常の活動費の支給とは別に、暑さ対策として緊急の支援を行う」と決定し、体育館に6台の大型送風機を寄贈しました。体育館を使用しているクラブの学生からは「涼しくなり快適です」などの言葉をいただきました。

これからも、学生会員との結びつきを深めながら、支援を進めていきます。



学生への支援金贈呈

令和7年3月25日、学生会館に於いて同窓会竹柏会から学生自治会に支援金をお渡ししました。久保三左男代表理事から「同窓会は、学生の活動を全面的に支援しています」と挨拶があり、学生自治会の代表は、謝意とともに「文化会・体育会の活動をさらに活発にしていきます」と話しました。

また、同席していただいた濱田学生支援課長からは、学生の活動が活発に行われていることの紹介がありました。お渡しした支援金は学生自治会より、文化会・体育会に所属する部活・サークルの各団体に分配されます。同窓会としては、重点目標に掲げる学生会員に向けての支援を、今後とも継続していきます。



新しくできました!! 同期会等開催への助成金制度

卒業や入学の同期・課程や教科・研究室・クラブやサークルの同窓生の集まりに対して、助成金をお渡しし、開催を支援することになりました。同窓生としての繋がりをいつまでも大事にいただき、同窓会活動や母校への理解と関心がさらに深まることを期待しています。併せて同窓会としては、同窓会年会費の納入や母校の基金への協力が一層増すことを願っています。

制度の概要

助成を受けることができるのは、同期会（卒業または入学年度が同期の者が対象）や、課程や教科・研究室、クラブ・サークルの同窓会（卒業年度の異なる場合も可）とし、下記要件を満たすものとする。

※ただし、大学祭時のOBの集まりを除く。助成を受けた同期会等は、「同窓会年会費納入のお願い」等の資料の配布を必須とする。

助成金額と要件

- ①助成金額▶2万円要件 ▶30人以上の参加があること。
- ②助成金額▶1万円要件 ▶20人以上の参加があること。

申請の手続き

- ①事前に開催日時・参加予定者数・代表者の連絡先等を電話やメール等で事務局に連絡する。
同窓会事務局 TEL0742-21-6101 E-mail:nakyodoso130@gmail.com
- ②事務局より、「同期会等開催報告書」や「同窓会年会費納入のお願い」等の資料を送付する。

助成金の交付

「同期会等開催報告書」をもとに事務局で要件等を精査し、交付する。

その他

- ▶開催した会の報告と、会報に掲載する原稿と写真を、同窓会事務局に提出する。
- ▶申請は、年度に1回とする。
- ▶案内状発送等についての相談などがある場合は、同窓会事務局に連絡する。

※令和6年度及び令和7年度の会報発送時までに実施された同期会等については、事後申請・報告を認めることとします。

奈良教育大学基金

未来を育む基金～ご寄附のお願い～

奈良教育大学基金では、次にあげる事業へのご支援をお願いしております。

①本学全体の活動を充実させるための事業

教育研究活動の支援、教育研究環境の設備充実、社会貢献活動、その他基金の目的達成に必要なこと

②学生支援事業

学生生活・厚生施設の充実、課外活動及び学生企画等の学生支援に関する事業など

③国際交流及び学術交流事業

国際交流事業、学術交流事業、留学生交流事業など

④修学支援事業

経済的理由により修学が困難である学生の入学料や授業料の(一部)免除、学資の給付・貸与、留学費用の補助など

⑤研究等支援事業

学生又は不安定な雇用状態にある研究者を対象とした、研究活動、研究活動の成果発表、研究交流促進等の支援に関する事業など



オンラインでも
お手続き可能です!



↑QRコードはこちら

「同窓生のつどい」のご案内

卒業した皆さんにとっては懐かしい大学構内を散策していただき、山田ホールで学生や卒業生による発表や演奏・合唱を楽しんでいただきます。茶室に接待の場を用意し、世代を超えた懇親の場も設けますので、ぜひ奮ってご参加ください。

令和7年10月4日(土) 10:00～ (受付9:30～)
山田ホール・クラブハウス・食堂 など
※午前中だけのご参加もOKです。

懇親会費 会員 3,000円 / 学生会員 500円 (12:00～学生食堂)

申し込み 同窓会事務局 TEL: 0742-21-6101
Eメール: nakyodoso130@gmail.com

10:00～ 大学構内の見学 クラブハウス

同窓会で建設基金を募集し竣工しました。
ハウス内に協力者の名前が記されています。



10:30～ 学生、OB・OGの発表会



楽桜会混声合唱団
音楽専攻者同窓会「楽桜会」による合唱団。



ギターマンドリン クラブ
私たちの音楽を、優しい音色に乗せてお届けします。

講堂

愛称：
バルティノン



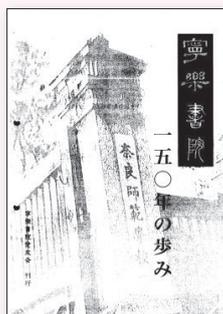
11:00～
ホール2階
茶室で一服

12:00～ 学生食堂にて 懇親会

これまでの同窓会総会のように各年代の同窓会員が集い、
楽しいひと時を過ごしましょう。



奈響ネブ
アカペラで素敵なハーモニーを響かせます。



寧楽書院愛友会
奈良教育大学の淵源である寧楽書院の歴史を紹介します。

研修部だより

令和6年10月27日(日)

宮下 俊也学長先生による公開文化講演会を開催いたしました。
美しい奈良の田園風景の中の学校の校歌にひたることができました。



宮下 俊也学長先生作曲の五條市立西吉野農業高等学校、橿原市立白檀小学校、奈良県立大学附属高等学校の三校歌をピアノ伴奏と共に、参会者の皆様と盛況に楽しむことができました。

令和6年度まほろば徳・得講座」を実施しました。とても実りのある講座となりました。

- 第一講 7月3日
▶講師：妖怪書家 逢香先生



- 第二講 12月4日
▶講師：木村鑑廣先生



NEW!! 令和7年度「まほろば徳・得講座」

皆様のご参加をお待ちしております。

- ▶第1講 日時：令和7年7月2日(水) 13:30～15:00
場所：山田ホール
内容：みんなで考える、これからの「学校」
講師：大和高田市教育委員会事務局
教育部 学校教育課 指導主事 寺川 聡 先生
- ▶第2講 日時：令和7年12月3日(水) 13:30～15:00
場所：山田ホール
内容：キャリア教育の目標を踏まえて生徒の夢を応援する進路指導
講師①：竹柏会 代表理事 久保 三左男 先生
▶小学校のキャリア教育・中学校の進路指導
講師②：学校法人つくば開成高校 関西総括本部参与 濱 喜代巳 先生
▶通信制高校からの報告



NEW!! 令和8年度に実施予定!! 一日親睦研修旅行のお知らせ

『舞鶴引揚記念館他 と 楽しい会食・ドリンク』

- ▶行先：舞鶴引揚記念館 (京都府舞鶴市字平1584)
- ▶日時：令和8年5月31日(日)
- ▶費用：一般会員 6,000円 学生会員 3,000円

※詳しい日程や内容、申し込み方法などについては、令和8年になりましたらホームページやInstagramなどでお知らせいたします。



参加申し込み

TEL：0742-21-6101 FAX：0742-21-6102
Eメール：nakyodoso130@gmail.com



舞鶴引揚
記念館他
参加申込
QRコード



奈良教育大学
公式Instagram

会員だより

コロナ禍での奈良教育大学同窓会 ～同窓会創設130周年記念事業の思い出～

名誉理事 吉田 貴子 (S35)

振り返りますと、2019年3月10日、奈良教育大学同窓会は、奈良教育大学の創立130周年を祝い八重桜、しだれ桜、橘などを記念植樹として大学に贈呈しました。この日行われた植樹祭では、来賓の方からこれからの人材育成を願う挨拶をいただき、ミニ植樹を行いました。このミニ植樹と共に後日、大学の敷地内に13本の木が植樹されました。

同じ年の6月には、同窓会活動の見直しを兼ねて、同窓会の法人化についての研究協議を重ね、専門家の指導もいただき、定款の完成と同時に法務局の許可を受けて「一般財団法人奈良教育大学同窓会竹柏会」としての一步を踏み出しました。そして、2020年度の最後の大きな取り組み、奈良教育大学同窓会創設130周年を祝う事業がスタートします。

平成が令和にかわり、創設130周年を祝う事業「クラブハウス建設」に向けて、クラブハウス建設基金の趣意書の作成と発送の準備も整い、目標金額の達成に向けて同窓会事務局全員の意識が高まってきた矢先でした。2020年2月、超越した行動力と遠大な構想力をもって陣頭指揮をしておられた森会長が、病魔に襲われて急逝されたのです。事務局を兼ねていた全理事が戸惑いましたが、取り組んできた記念事業の遂行に一致協力して取り組むことを合言葉に頑張るより仕方がなかったのです。

ところが悪いことは重なるもので、2019年末から新型コロナウイルスが歩み寄っていたのです。

2020年4月に「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が出されたため、全員が集まって相談することもできず、いらいらする日が続きました。大学当局の「寄付は現金でなく、形のあるもので」という希望があり、寄付金の使途については難航しましたが、大学当局と何度か協議をした結果、一時的に現金を大学側に預ける形で治めることになりました。寄付金の振り込みが止まり、金額が1,000万円を超えるころ「12月中には何らかの形で贈呈式をしよう」ということで話し合いをしました。コロナ禍で、会合などを開くことが難しかったため、「延期したほうがよい」という意見も出ましたが、中川会長の決断で開催することになりました。

クラブハウス建設基金贈呈式では、中川同窓会代表理事から建設基金を立ち上げた経緯の説明や多数のOBに寄付を募ったこと、大学との協議で基金を財源とした課外活動に使う部屋を2部屋設置してもらうことなどの説明や目録内容が披露されました。目録には寄付する金額と寄付していただいた方々の氏名（後ほど銘板に刻印される）が掲載されています。贈呈式の参

加人数は多くありませんでしたが、来賓をはじめ、大学・学生の代表、同窓会実行委員の皆さんの協力で、ささやかながら内容のある厳粛な贈呈式となりました。

寄付金の使途については、大学でも真剣に考えてくださったのでしょうか。同窓会の「クラブハウス建設」の希望に沿って、将来学生のクラブハウスになる研究棟の一部に入れていただき、完成時には今のように二つの部屋を学生の多目的教室として使用できるようにしてもらっています。

2022年2月15日に2回目となる280万円の寄付を行いました。またこの年には、宮下学長が大学主催で竣工式を挙行してくださいました。大学からは学長や学生と、同窓会からは数名の理事が出席し、共に喜び合い、今後の発展を誓い合いました。記念事業から得た数々の教訓は、今後に生かされるものと信じています。

顧みれば、困難をきわめた状況の中で、3年間務められた中川代表理事は、よく頑張られたと思います。どんな時も動揺せず、常に平常心を保たれ、何事も適切に対処されていた姿は、責任者に相応しいものであったと思っています。130周年事業についての思い出は尽きませんが、各事業への取り組みは、会長を中心に各理事が一丸となって努力した成果であり、会員は勿論のこと関係者のご支援の賜物であると今はすべての方に感謝するところです。

また、何よりの収穫は、植樹祭の時と同じように大学当局と同窓会の連携が密になり、信頼関係が一層深まったことです。加藤学長が退官時に、「自分の学長在職中の功績をあげれば、その一つに同窓会と大学当局との密なる連携と信頼が生まれたことです」と申されていました。その言葉で苦しかったことが癒され、励まされ、勇気もらったことが心に残っています。平時であれば、この結果では満足できなかったものかもしれませんが、コロナ禍での遂行は誇れる成果であり、互いに賞賛に値するものと思っています。



2022年6月1日 クラブハウス竣工式



パルテノンに魔笛が響く

松原 さおり (S39)



2025年3月9日。庭の紅梅が漸く蕾を膨らませ始めた頃、わたしは母校奈良教育大学講堂パルテノンに後輩同窓生と二人で席を占めていた。これまでも、自宅が近いという理由から義務感のようなものが働くのか、独り静かに聴きに來ていたのだが、今日は二人なのが何よりも心丈夫で楽しい。

急勾配の薄暗い階段を恐る恐る降りねばならないが、大学にパルテノンと呼ぶ講堂が在るということが、静かな誇りを誘っていたのかもしれない。

ほどなく、開幕ブザー、アナウンスと共に上がった^{どんちよう}緞帳の下には、目も眩むばかりの明るい舞台が待っていた。演目は、ヴォルフガング、アマデウス、モーツァルト作曲の『魔笛』。「いつの時代か、どこの国かもわからないおとぎの世界」（この表現はパンフレットから拝借）の物語である。

飛び出すように現れた学生の大きなこと！すべてが大きい。体格は勿論のことだ、よく通る美しい声はその裏に発生の厳しい指導と訓練を忍ばせる。舞台の下にオーケストラが居るのも驚いた。誰もが自身に満ち、喜びに溢れ、何も心配などしていない。演じられることが嬉しくて仕方ないという^{ふび}風情にわたしには見えた。

呆気を取られているわたしにお構いなく舞台は進んでいく。背景も、衣装もメイクも簡潔に、それでいて十分に役目を^{こな}熟しており、とても^{しろうと}素人学生の成せる業とは思えない。

音楽が流れる。美しい美しいアンサンブル。わたしが学生の頃、60ウン年前には、オーケストラを演奏するだけの種々の楽器を扱える学生人材は無かったし、今、手元のパンフの写真に見るほどに音楽に関わる人数も無かった。奈良女子大学のメンバーの協力を得て

いるということが爽やかにして賢明で、心がやわらかい。今の学生気質の大切な部分を覗き見た気がする。

もう一つ驚いたのは指揮者。うしろ姿がシルエットに見えるだけなのだが、長い髪を清楚に後ろに^{まと}纏めた、この道に長けた女性指揮者を思わせる姿を背負っている。何より、世の男性指揮者のように、力任せに髪を振り乱し、汗を撒き散らさないのが、音楽を汚さなくて奥床しい。

ピアノは大勢で交代していたのだろうが、誰もが素晴らしい。世のピアノ奏者のテクニックは、いつの間にこれほど向上したのだろう。

学生の舞台をバックミュージックに、わたしは時の流れの偉大さを痛感していた。

戦後、徐々に世の中が落ち着くと共に、余裕のできた人の心は美しさを求めて音楽の世界に及んできたのだろう。そして、人の心に、夢も、自信も、明るさも、やわらかさも、恐れることなく成長し、情熱をぶつけることができたのだろう。

わたしは四回生の頃を思い出していた。作曲の時間、こどもの詩に曲を付けよと云う。

母さん大根刺で
人參……（オモイダセナイ）……てる
ボールの中には椎茸が
澄ました顔して並んでる
五目ごはんだよ
ほんとだよ

最後の二行に四苦八苦した自分を可愛いと、クスリと笑いながらパルテノンを出た。辺りは夕焼けに染まっていた。今夜は五目ごはんにしよう。



『先人達に学ぶ』

久富 讓司 (S54)

最近、教員の過重労働について様々なメディアが取り上げています。加えて、教員採用試験の志望者の減少もよく耳にします。もちろん、教育系大学や学部を卒業しても、学校教育現場ではなく、他の分野に進み自らの能力を活かしていこうとする人がいるのも、それはそれで良いことだと考えます。しかしながら、理想の教育を純粹かつ熱心に追い求めている現場の教員

や大学生がたくさんいることも事実でしょう。

私は、教育現場にいるときから、先人達の優れた教育実践を掘り起こすことをライフワークとしてきました。ここでは、本学卒業生の森窪君三氏（大正2年卒）とその周辺人物についてご紹介したいと思います。森窪君三氏の業績については、奈良教育大学国語国文学会学会誌8号に『『赤い鳥』にみる桃俣小学校の自由詩について』を第一次論文として発表しています。

『赤い鳥』は、大正時代に子どものためによい読み

物をとの思いで鈴木三重吉が創刊した月刊雑誌です。著名人が参加し、例えば創刊号には島崎藤村の作品や芥川龍之介の「くもの糸」が、後には小学校国語教科書で有名な新美南吉の「ごんぎつね」が掲載されています。また鈴木三重吉が綴り方を、北原白秋が童謡・自由詩を募集し、指導選考掲載を始めたことも重要な事項として捉えられています。

その『赤い鳥』に御杖村の桃俣尋常小学校からは、大文字掲載の推奨10編、詩掲載の入選107編、合わせて117編の自由詩が選ばれている他、選外佳作も82編、掲載童謡入選1編をみることができます。山村の小さな小学校としては、この数の多さは全国でも珍しく、白秋からも賞賛されています。また天覧台覧と記載のある北原白秋選『児童自由詩集』（昭和3年刊）にも7編の詩が掲載されています。

これは大正11年に校長兼訓導として赴任した森窪君三氏によるわずか4年半の指導の成果です。その自由詩指導のきっかけは大正10年に遡ります。その8月、森窪氏といずれも奈良師範出身の友人3人が片道2日かけて軽井沢に出かけています。星野温泉で開催された芸術自由教育講習会に参加するためです。そこで北原白秋、島崎藤村、山本鼎らの講習を受け、夜は賑やかな交流会に参加しています。

御杖村に帰ってきた森窪氏は自由詩の指導を、妻、淑さん（三重女子師範出身）と始めます。私生活では二人の子どもを亡くす不幸にみまわれ、しかも淑さんも27才で現職中に亡くなってしまいます。

そういうなか、山村の学校で繰り広げられた自由詩運動は、全国的にも珍しく、教育史上特筆すべき実践です。

軽井沢の講習会に参加した吉岡正一氏（大正5年卒）隅田益美（大正3年卒）はいずれも尋常小学校の校長

を勤めていますし、森本留治郎氏（大正4年卒）は台湾に渡り、総督府の官吏や臺北帝國大学の事務官を務め、奈良に帰ってからも重責を担いました。

また、森窪氏と交流のあった仲川明氏（大正7年卒）は教職後、後の奈良県立図書館館長としても活躍し、西久保奈良石氏（大正8年卒）は桜井市を中心に今でいう特別支援教育に尽力しています。この両氏は一時奈良に居住した武者小路実篤との繋がりから、田原本町に第2の「新しき村」を作ろうと計画していました。

さらに森窪氏と『奈良児童自由詩選』（昭和3年刊）を編んだ中川静村（至誠）氏（大正14年卒）は、教職の他、橿原市の浄念寺の住職を勤めながら多くの学校の校歌を手がけています。

これら先輩の皆さんの教育理念はどのようなものであったのでしょうか。治安維持法の制定など大正後期から特に強くなった「自由」への締め付けという社会背景を踏まえながら考えたいところです。

以上一部を紹介いたしました。奈良県教育史に残すべき森窪氏の実践を中心に近いうちにこれらの詳細を先の「桃俣小学校の自由詩について」に係る修正論文としてまとめていこうと思っています。



『6年ぶりの同窓会』

阿部 茂 (S46)

2024年5月、6年ぶりの同窓会を奈良ホテルで持ちました。奈良公園は真夏の暑さで、ホテル玄関までの急な坂を汗だくで上っていきました。

同窓生も70歳半ばになり、だんだん出席者が減少しており心配していましたが、参加者は24名もいました。楽しみにしていた各人のスピーチは全員が済むまで90分もかかりました。6年間たまっていた思いを吐き出したのでしょうか。いつもなら聞き手から容赦のないつつこみ、やじ、質問が飛び交っていたのですが、真面目に聞いていたのでしょうか。何人かから、一部の新聞社の附属小学校の教育に関する報道に疑問の声が挙がっていました。多くの人からは、「足・腰・膝が弱くなった」「心臓が悪い」「脳梗塞や認知症になりかけ」など、体の不調を訴える声を聞きました。ある人からは「次回はもう来られないかも」という悲痛な声も。誰もが同じような悩みを抱えているのでしょうか。中にはボランティア、大学やカルチャーの講師、児童、

生徒の指導、それに会社を経営している人もいました。「同窓会も今回で最後やなあ」という声もありましたが、「最後の参加者になるまで同窓会をやろう」という勇ましい発言もありました。

次回同窓会は2026年5月に、奈良公園内で開催します。サプライズも企画します。多くの方の参加を期待しています。



『とりの会』

中上 武二 (S41)

昭和41年奈良教育大学「同窓会年1回はやりましょう」の声。卒業式の日、数人声をあげました。「我々は奈良学芸大の最終卒『とりの会』という名前にしましょう」と数人が提案。一同拍手。落語を聞いていると、若手から始まり最後に師匠が「とりをとる」。我々は学大のとりを取りました。寄席で最後に出演する者に因んで命名しました。



『陸上競技部OB会』

下村 雅一 (S52)

前回の会報「まほろば 学生クラブ・サークルだより」で陸上部が紹介されていました。卒業50年を迎えるOBの方を中心に、同じ練習で汗水流した仲間との交流から今回OB会が開催されました。集まったのは12名。半世紀ぶりの再会に乾杯し、近国体・全教戦・春日奥山ランニングや飛火野練習など笑い合う思い出ばかりが語られました。

次はお決まりの近況報告。みんな70歳を超えていますが、仕事やボランティア活動、趣味、押活と語り口調は生き生きしています。私自身は趣味でサイクリングをしていましたが、2年前に落車し膝じん帯断裂をしてからは家ででの生活が多くなりました。その結果、肉体的な老化だけでなく「人生の最期に向けて…」「終活」などのネガティブな記事が目に入り、心が重くなっていました。しかし、皆さんのポジティブな生き生きとした生活や思考に触れ友人の存在に気づかされました。

ハーバード大学での研究「幸せの条件」の結果を一言に集約すると「健康で幸せな生活を送るには、良い

人間関係が必要だ」とあります。良い人間関係には、配偶者、家族、仕事仲間と様々な形での繋がりがありますが、年齢を重ねるうちに最もハードルが高くなるのが「友人」関係です。昔の友はライフステージの変化とともに疎遠になり、今からサークルに入って新しい友を作るのは難しいと感じていました。

しかし、OB会や同窓会は新しい世界への第一歩となる素晴らしい出会いの場です。そこから旧友との交際再開や新しい出会いが始まり、70歳台の「黄金の十年」をスタートできることを願っています。



『運動生理学研究室同窓会』

田畑 吉一 (H元)

中牟田正幸先生の御指導を受けた運動生理学研究室の同窓会が8月17日に行われました。

最年少は57歳、最高齢は79歳とベテランばかりの宴でした。私にとっては、学生時代から存じ上げる方々ばかりで、当日を大変楽しみにしていました。皆さんの近況を聞かせていただきましたが、どの方も現役でバリバリと働いておられました。なんともびっくりした次第で、大変刺激を受けました。

来年は、中牟田先生がお生まれになって100歳の年となります。来年の宴でも中牟田先生との思い出話に華が咲くこと間違いなしです。



『昭和46年入学者同窓会を開催して』

増田 辰夫 (S50)

昭和46年入学者同窓会を、令和6年11月30日(土)にホテル日航奈良で開催しました。

そこで、開催までの経緯を辿ってみたいと思います。現在大学同窓会の理事をしている5名が、たまたま昭

和46年入学者であったことから、我々が幹事となって卒業後50年ぶりに、しかも初めての同窓会を開催しようかと軽い気持ちで話したのが発端でした。当初は、30人くらいの参加者があれば大成功だろうと思っていました。約200名の卒業生に案内状を送ったところ、何と56名が参加してくれました。遠い人は鳥取県から、名古屋市や淡路島からも駆けつけてくれました。

私たちが古希を数年前に終え、あと数年で後期高齢者の仲間入りの年齢になります。大学生活を共にした仲間も、把握しているだけで20名くらいが亡くなっています。同窓生として哀悼の意を込め、黙祷を捧げて開宴しました。

乾杯の発声を三上憲孝君(体育科)にお願いし、食事・歓談へと入って行きました。少し歓談の後、各テーブルを代表してテーブルスピーチをお願いしました。ソロでのスピーチや、同じ課程や部活動の友達と一緒にの楽しいスピーチがありました。金治和代さん(小学校)のスピーチを皮切りに、山本恵子さん(小学校)、宮田弥生さん(養護課程)、水口和野さん(特理)、平井隆君(中理)、山本孝君(技術科)、藤田謙治君(小学校)、大井式子さん(幼稚園)が話し、最後に小森佐知子さん(英語科)にお話し頂きました。

その後、「この機会にこれだけはぜひ言っておきたいという方がおられましたらよろしく願います」と提案したところ、前川隆彦さん(小学校)に手を挙げて頂きました。実は、前川さんは45年入学の50年卒の方で、46年入学ではないのに案内状が来たので出席を躊躇されたようですが出席いただきました。「学年は違ったけれど出席してよかった」とお話し頂きました。この前川さんが淡路島から来られた方です。スピーチ頂いた皆様、この場をお借りしてお礼申しあげま

す。ありがとうございました。

最後に、幹事である近藤君に閉宴の挨拶をして貰いました。その際、次回開催をいつにするのが適当なのかとの問いに、「77歳の喜寿になる年」の意見が多く、その時に開催することを約束して閉宴しました。続いて、ホテルのご厚意により写真室をお借りし記念の集合写真を撮り解散としました。

終わってみて、参加者の皆さんには限られた時間でしたが、昔に帰って楽しい時間を過ごしていただけたように思います。次回の開催まで皆様方お元気で、お会いできることを楽しみにしています。残念ながら今回出席できなかった人も次回は是非出席くださるようよろしくお願いします。皆さん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

また会う日までさようなら。



『最後の奈良教育大学美術科 同窓有志会を終えて』

三宅 道彦(S60)

2004年(平成16年)に「青丹彩展を通して絆を深めた美術科同窓生の有志」により設立された“有志会”、4年に一度「オリンピックの年」に美術科の先生方もお招きして、総会と懇親会を開いてきました。以来20年コロナのために開催できない年もありましたが、昨年2024年(令和6年)7月27日(土)に、懐かしい奈良教育大学生協を会場として8年ぶりに懇親会を開催することができました。

大学の教官としては、宇田先生、山岸先生のお二人そして同窓有志会からは、昭和47年入学の方から平成26年入学の方まで110名あまりの参加者で盛大に開催することができました。懇親会の前には、先生方の計らいで改修が終わりきれいになった美術棟を特別に見学することができました。



懇親会では、まず黙祷、乾杯の後、近況報告や美術科らしく近日中に開催される個展や展覧会の紹介をしました。

今回を最後にすることになったのは、担当者が苦勞して管理してくれていた名簿が会員の転居やメールアドレス変更などで半数が連絡を取れなくなったこと、大学時代にお世話になった先生方の多くが亡くなられたことなどが挙げられます。それでも懇親会に多数の会員が集まったのは学年幹事が懸命に連絡してくれたことと、共に美術棟で楽しく制作し暮らした思い出と美術が繋いでくれた縁であると思います。

支会だより

令和6年度「あおによし会総会・懇親会」

鐘築 栄滋 (H8)

本会は京都府在住(在勤)で、奈良学芸大学・奈良教育大学の卒業生有志で構成される会であり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年より約3年間開催を控えておりましたが、昨年「発足40周年記念総会」として久しぶりに開催ができ、今年は令和6年8月10日に開催しました。

当日は20名の会員の皆様のご出席をいただき、北村伸二会長挨拶、久保三左男前会長からの来賓紹介、ご来賓の奈良教育大学の吉田誠同窓会理事からのご挨拶に引き続き、昨年度末に退職された先生方に記念品を贈呈し、ご挨拶をいただきました。

その後の研修会では、同窓生で現京都府教育庁指導部長の相馬直子様より「教育を取り巻く現状・課題と今後の展望」についてご講演をいただきました。会員の中には、現在は教職を離れている方も多くいらっしゃる中でしたが、現在の子どもたちを取り巻く教育環境や社会の変化、京都府の学校教育・社会教育等の動向について、現職者、退職者のどちらの

層の方にも大変分かりやすくご教授いただき、学び深い時間を過ごしました。

それに続く懇親会では、アルコールも交えて美味しい料理に舌鼓を打ちながら、懐かしい話やそれぞれの近況について語り合う、和やかな時間を持つことができました。情報交換と親睦を図る「あおによし会」は、多くの諸先輩方の貴重なお話を聞かせていただける場、年齢や世代の枠を超えたつながりと緑の深さを実感できる場であります。今回の会でも、多くの方々の支えにより「今」があることに改めて気づかされ、たくさんの先生方とのつながりをみんなで確認し、様々な出会いに感謝する大変有意義な良い時間となりました。



八尾市支会(鹿の会)報告

山田 昇 (S50)

受付で「お久しぶりです。」と昔から顔なじみの校長先生に迎えられ、令和6年6月1日(土)午前11時半より八尾市内にある籠乃屋で本当に久しぶりに八尾市支会が開催されました。

前ははまだ私が現役のころなので、10年以上前になると思います。現教育長である支会長の声掛けで現役からOBまで14人の参加がありました。令和3年卒の非常に若い先生から昭和50年卒の高齢者?と枠を超えた中身の濃い交流ができました。会は1部の総会と2部の懇親会に分かれて行われました。1部の総会では支会長の開会のあいさつがあり、八尾市支会の新しい会則が提示され、今後の支会開催のために副支会長、会計、事務局長が選出され承認されました。また、支会長からは年会費の納入について依頼があり、参加者全員から会費を徴収することができました。事務局からも会費が大学や学生のために有意義に使われている等の話をすることができたのでよかったです。

2部の懇親会ではアルコールも入り、自己紹介の中で、そ

れぞれの時期での大学時代の思い出や卒業後の八尾市での職場の状況などを和気あいあいの雰囲気の中で全員が語ってくれました。今後の「鹿の会」の開催で課題になるのが支会参加者の把握が難しいということでした。今回の参加者も人づてに参加してもらったので、何とか明確に分かるようになっていかという声も出ました。

約2時間と短い間でしたが、お互いが顔見知りになり、つながることの良さを実感しながら、次回の再会を約束してお開きとなりました。



大阪市興東会「創立70周年記念の会」開催報告

安田 信彦 (S63)

令和6年11月10日(日)に「がんこ難波本店」で大阪市興東会創立70周年記念の会を開催しました。久保三左男竹柏会代表理事を来賓にお迎えし、退職校長会の皆様と現役管理職を合わせて総勢50名が参加しました。

戦後の困難な時代に、互いの親睦と研修を深めることを目的とし、大阪市の教育の振興と発展に努めることをめざして、大阪市興東会は結成されました。この日は、諸先輩方から当時の苦労話や懐かしい話などをお伺いしたり、現役からは昨今の学校現場の様子をお伝えしたりするなど、交流を深めることができました。会の最後には、参加者全員で奈良教育大学学歌を歌い、同窓会の固い絆を確かめました。

また、創立70周年の記念品として「興東会ロゴ入りハンドタオル」を作成し、興東会ロゴ入りのオリジナルスイーツと一緒に、お土産として持って帰ってもらいました。

今回、「大阪市興東会創立70周年記念の会」を開催したことで、会員同士やOBとのつながりがより強固になりました。これまでの歴史と伝統を受け継ぎつつ、今後の興東会の活動を充実させていきたいと思ひます。



学生会員からのたより

書道教育専修の活動紹介

書道教育専修 甲谷 将紘

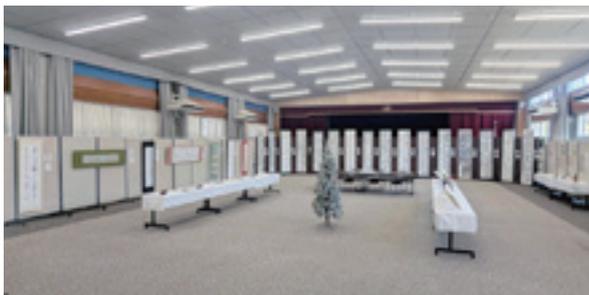
書道教育専修では、漢字書道や、仮名書道などの実技、書道理論、歴史などの講義を通じて、知識と技能の両方を身に付け、高等学校芸術科書道の教員を目指し、日々努力しています。奈良には、博物館や、寺社などで、貴重な資料や作品を見ることができ、書道用品店が数多く並んでいるため、書道をするのに適した環境が整っています。

授業外では、各回生が主催している「回生展」や、学部生が中心となり、院生、大学教員だけではなく、書道教育専修出身のOB・OGの方々にも協力していただき「教育大展」という展覧会も開催しました。学内外の様々な展覧会を通して、それぞれの目的に合わせた作品制作を行い、作品制作の力を身に付けています。

この会報を通じて、書道教育専修の活動が多くの方々に伝わることを大変うれしく思うと同時に、作品制作などを通じて日々努力してまいります。



教育大展



3回生展

高齢者の運動機能に影響を及ぼす因子の検討 —特に若年期の運動習慣に着目して—

教科教育専攻 保健体育専修 小島 千怜(R7卒)

本研究を行うにあたり、調査にご協力いただいた同窓会の皆様に心より感謝申し上げます。

研究の背景

現在、我が国における介護保険制度のもとで要介護・要支援認定を受けている方の数は約693.3万人にのぼります。その主な原因として骨折や転倒、関節疾患などの運動器に関連する要因が最も多いとされています。「ロコモティブシンドローム（以下ロコモ）」は、「筋

肉・骨・関節・軟骨・椎間板といった運動器の障害により、立つ・歩くといった移動機能の低下をきたした状態」と定義されており、進行すると介護が必要となるリスクが高まるとされています。

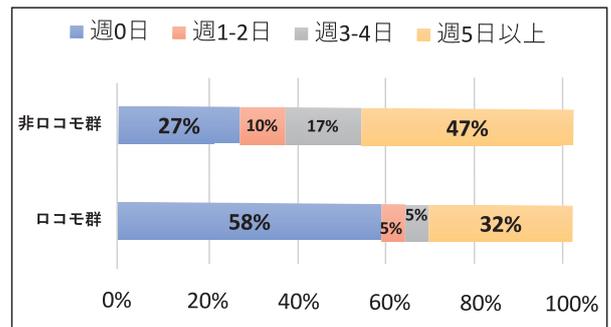
研究の目的と方法

本研究では、同窓会の正会員を対象に「中学・高校時代から現在までの運動習慣」「傷病歴」「現在の運動機能」についてアンケート調査を実施しました。その結果を分析し、若年期の運動習慣が高齢期の運動機能に及ぼす影響について検討しました。

研究結果と考察

アンケートの回答者は56名（回収率45%）でした。回答者のうち、ロコモではない方（以下「非ロコモ群」）は30名、ロコモ度1～3に該当する方（以下「ロコモ群」）は19名でした。

まず、各年代における運動習慣の頻度を比較したところ、「中学時代の運動習慣」がその後のロコモ発症に大きな影響を与えていることが示されました。



表【中学時代 運動実施頻度とロコモ有無】

(週0日と週1日以上に分けた場合)
図【中学時代 運動実施頻度とロコモの有無】

中学時代	ロコモ群	非ロコモ群
週0日	11名	8名
週1日以上	8名	22名
計	19名	30名

一方で、過去に「運動ができなくなるほどのケガ」を経験したこととロコモ発症の間には、有意な関連は認められませんでした。

次にロコモ度を測定する指標である「ロコモ25」の質問項目ごとの分析をしました。その結果、「痛みがある」など動作や活動に問題があるとした回答は、非ロコモ群では半数以下でしたが、ロコモ群では以下の項目で高い値を示しました。

- 家の中を歩くこと
- 風呂で身体を洗うこと
- 隣、近所に外出すること
- スポーツや踊りをする事への不安
- 背中、腰、尻のいずれかに痛みがあること 等

この結果から、ロコモ群では日常生活の多くの動作に困難を感じていることが明らかとなりました。さらに、過去の研究によると、日常生活で困難となる動作

には順序性があり、「外出を控える」ことは最終段階に位置するとされています。そのため、できるだけ積極的に外出し、他者との交流を持つことが重要であると考えられます。

まとめと今後の提案

本研究を通じて高齢期の健康維持には「無理のない継続的な運動」が大切であることを改めて実感しました。ご自身の健康のため、以下のような活動をぜひ取り入れてみてはいかがでしょうか。

①ウォーキング

➡毎日20～30分を目安に、ゆっくりとしたペースでも十分です。

②簡単なストレッチ

➡関節の動きを維持するために、朝晩5～10分程度のストレッチを行きましょう。

運動を習慣化することで、健康寿命を延ばし、より充実した日常生活を送ることができると考えられます。

学生自治会

学生自治会執行委員会 執行委員長 中井 知世

こんにちは。奈良教育大学学生自治会執行委員会です。奈良教育大学学生自治会とは、奈良教育大学の学部生全員を構成員とする学生自治組織で、その内から選出された学生が学生自治会執行委員会（以下本委員会）に属しております。本委員会は現在3回生2名、2回生2名を中心として活動しています。

活動内容として、文化系部活動・サークルが所属する文化会、体育会系部活・サークルが所属する体育会を統括すること、また大学祭実行委員会への支援、在学生代表としての式典参加などがあげられます。他にも本委員会では、学部生の皆様がより楽しく素晴らしい大学生活が送れるよう日々支援を行っております。

本委員会が行っている取り組みのうち、同窓会の皆様と関わりの深いものは部活・サークル関連でしょう。本委員会では部活・サークルへの支援として、活動内容に応じた支援金の分配や、公平な勧誘の機会としてのサークルオリエンテーションの実施を行っております。本委員会は入学時に納入いただく自治会費より運営されており、大学祭支援等への出資もあります。そのため、本委員会のみでは部活・サークルへの十分な支援を行うことができないことがございます。そうした際に、同窓会の皆様より頂いた援助金によって、各団体へより良い支援を行うことができております。「援助金のおかげで大会への出場費を工面できた」といった声も頂いております。この場を借りて深く御礼申し上げます。

本委員会は陰で学部生を支援する業務の方が多く、学部生ですら本会の活動を知らない場合が多くあるのが現状です。そのため今年度は、学部生に同窓会の皆

様より支援いただいていることを広く認知させることを目標とし広報活動に尽力してまいります。

最後になりましたが、平素より学生自治会へご支援賜りありがとうございます。学生を代表して感謝申し上げます。

大学祭実行委員会

第75代 大学祭実行委員会委員長 豊田 凜磨

第75回輝薨祭が、2024年11月16日(土)・17日(日)の2日間にわたり開催されました。

2024年度は新型コロナウイルスに関する規制もなく、模擬店の出店数も昨年度より増加し、多彩な食品を食べ歩くことができる大学祭となりました。多くの来場者の皆様にご満足いただける、にぎやかな2日間となりました。

学内装飾は「海外」をイメージに彩られ、異国情緒あふれる雰囲気 연출しました。また、子どもフェスティバルではプチ旅行気分を楽しめるゲームや劇を行い、お子様連れのご家族にも楽しんでいただきました。さらに、オープニング祭では恒例のビンゴ大会、エンディング祭では昔話をモチーフにしたミニゲーム、お化け屋敷、景品をかけて競い合う国際三輪車レースなど、さまざまな企画を実施し、子どもたちの楽しそうな笑顔が印象的でした。

また、特別企画として、お笑い芸人の祇園さん、三遊間さん、そして爛々の萌々さんをお迎えし、お笑いライブを開催いたしました。多くの来場者で会場は大いに盛り上がり、笑顔と歓声があふれるステージとなりました。

2024年度のテーマは「奈教魂 We can Leap High!!」。「Leap High(飛躍)」を体現したような、例年以上に活気に満ちた大学祭をお届けすることができたのではないかと感じております。

輝薨祭の成功は、同窓会、後援会の皆様、大学関係者の方々、そして地域の皆様の多大なるご支援とご協力があってこそ実現できたものです。心より感謝申し上げます。

2025年度の輝薨祭は、2025年11月22日(土)・23日(日)の開催を予定しております。2024年度の反省を活かし、より一層充実した輝薨祭を目指してまいりますので、ぜひご来場いただけますと幸いです。



同窓会年会費振り込みご協力のお願い

ご自宅で簡単に納入できる
スマホ決済を導入しています
PayPay・auPAY・PayB

コンビニ振込用紙のバーコードをスマホ決済アプリで読み取り、金額を確認してお支払いください。支払先は㈱サラトに委託していますので「サラト」と表示されます。



年会費の用途

- 「会報まほろば」(年1回)の発行
- 「学生会員への支援」として
クラブ・サークル活動や大学祭への補助
- 支会活動・講座開設などの同窓会活動の経費

同窓会 3種構成

- ▶ **正会員(推進委員)**
正会員総会における議決権を有し、同窓会活動を推進していただいております。
- ▶ **一般会員**
- ▶ **学生会員**

年会費

- 正会員 3,000円以上**
新たにご希望の方は、同窓会事務局までご連絡ください。
- 一般会員 2,000円以上**
1,000円単位で増額していただけます。
- 85歳以上会員の一括納入**をご利用の場合
- ◎85歳 (10,000円) ◎86歳 (8,000円)
 - ◎87歳 (6,000円) ◎88歳 (4,000円)
 - ◎89歳 (2,000円)

事務局だより

- ◎「奈良教育大学同窓会ホームページ」へは、パソコンで検索頂くか、下記のQRコードを読み取ることで開くことができます。是非ご覧ください。
- ◎今年度も未来を育む基金(奈良教育大学基金)のパンフレットを同封しました。主旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。
- ◎まほろば38号は、全会員に発送しています。**住所変更等がありましたら事務局までご連絡ください。(メール・ファックスもご利用ください)**
- ◎事務局は、**毎週水曜日(10:00～13:00)在室しています。(お盆・年末年始を除く)**
なお、**7月14日(月)から8月8日(金)の期間は月・水・金曜日(10:00～15:00)在室します。**
- ◎同窓会は皆様の会費で活動しています。まほろば38号に書かれている各活動の支援金に使っています。会費の納入にご協力ください。
- ◎個人情報の保護には、万全を期しています。



奈良教育大学
同窓会
ホームページ

編集後記

同窓会創設130年記念事業で学内に植樹した桜も温暖化による生育への影響が心配されましたが、今年も春になると見事に花を咲かせてくれました。(写真:令和7年4月9日事務棟前)

令和6年度も会報「まほろば」に多くの会員の方から原稿が寄せられました。今後は、学生会員からも多種多様な原稿が寄せられることを期待しています。寄稿して下さった会員の皆様のご厚情に感謝しつつ会報「まほろば38号」をお届けいたします。



会員の皆さまの原稿を募集しております

支会や同窓会の報告、在学時代の思い出、近況や最近思うこと、趣味や研究、大学のゼミや部活動の紹介等お気軽に原稿をお寄せください。
令和8年4月10日(金)までに投稿していただくと「まほろば39号」に掲載いたします。
ただし、原稿数や内容によっては、次号になる

場合がありますのでご了承ください。500字程度で郵送かメールで投稿してください(写真があれば添付してください)。

送付先：〒630-8301 奈良市高畑町
奈良教育大学内
一般社団法人奈良教育大学同窓会
竹柏会事務局「まほろば原稿」
E-mail：nakyodoso130@gmail.com
件名「まほろば原稿」



一般社団法人 奈良教育大学同窓会竹柏会会報「まほろば」 第38号 発行：令和7年6月30日

発行所 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会事務局 〒630-8301 奈良市高畑町 奈良教育大学内
TEL:0742-21-6101 FAX:0742-21-6102 郵便振替番号00930-1-238232
Eメール：nakyodoso130@gmail.com

編集・発行 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会
印刷所 関西印刷株式会社 〒630-8281 奈良市南半田中町19・20番地